

# SimC News Letter

Sendai International Music Competition

2025年4月号

## 仙台国際音楽コンクールニュースレター

ブルース・リウ（第6回仙台国際音楽コンクールピアノ部門入賞）インタビュー

執筆：高坂はる香（音楽ライター）

仙台フィルハーモニー管弦楽団第380回定期演奏会にソリストとして出演するために仙台にいらっしゃったブルース・リウさん（第6回仙台国際音楽コンクールピアノ部門入賞）。第9回仙台国際音楽コンクール開催を目前に、当時の思い出やコンクールでの経験を伺いました。



—9年前に参加した仙台国際音楽コンクール以来の仙台訪問だそうですね。

前回の滞在で印象に残ることはありますか？

仙台駅近くのホテルに泊まっていて、当時はアプリで簡単にレストランも検索できなければ、友達がいたわけでもなかったから、ただ街を歩き回っていました。長いアーチ型のトンネルの下にたくさんのお店やゲームセンターが並んでいるのを、とても日本的だと感じたことが印象に残っていますね！

—19歳だった当時のご自身についてどう感じますか？

あれから多くの経験をしましたが、内面はあまり変わっていないと思います。人への好奇心は変わりませんし、音楽に対する見方も、多少の変化はありながら核心的な部分はそのままです。人間にとて、本質的な部分を保ち続けることは大切です。

—とはいっても20代は人が大きく変わるときもありますよね。

10代の頃は世の中のことを何も知らなかったなど懐かしく思い出すこともあるのですが……。

それはその通りです。でもそれは表面的な変化に過ぎず、本質は変わっていないと思いますよ。

無邪気でなにもかもが初めてで、もっと知りたいと感じていたあの頃を懐かしく思うところもあります。あの頃に戻れたらという気持ちと、今への満足の入り混じった感情を常に抱き続ける、それこそが人生ですよ。

—仙台国際音楽コンクールに参加することに決めた理由は？

最大の理由は、本選までいけば3回もオーケストラと共に演できるということでしたね！

毎回同じオーケストラですから、「ハイ！また会ったね」という感覚で繋がりができ、アンサンブルも密になる、そんなプロセスを経験できたのはすばらしいことでした。

あの時演奏したのは、ベートーヴェンの3番、ラフマニノフ「パガニーニの主題による狂詩曲」、モーツアルトの19番でした。でも一番緊張したのは、最後に演奏したモーツアルト。理由は……“それがモーツアルトだから”。

モーツアルトは本当に難しい。12歳未満か70歳以上の人にしか上手に演奏できないんじゃないかなと思います（笑）。

でも結果的にはあのモーツアルトが一番評価されたようで、審査委員の先生方にも「君の評価はモーツアルトで上がった」と言われました。

ちなみに僕自身はラフマニノフにすごく満足していたのですが、あとで「音が良くなかった」「スタイルに問題があった」と言われて、自分の感覚と現実の間には、時に大きなずれがあることも学びました（笑）。

—2016年の仙台国際音楽コンクールから、優勝した2021年のショパンコンクールまでの5年間であなたの中に起きた一番の変化は何かですか？

仙台の頃の僕は、磨かれていない原石のようなものでした。とにかく自分のやりたいように弾く本能的な演奏で、だからこそたくさんミスもありました。ある意味とても大胆で、自分のアイデアを見せたい気持ちだけがはやって、安全な道をとることを気にかけず、とにかく前進するスタイルでした。

そこで学んだことで、コンクール後、僕はいわゆる真面目な学生の演奏に向かっていきました。安全な演奏をして、それは一見完璧に見えるけれど、内面にある根源的な部分を失っていっている気もしていました。

何かを試してはためらい、また試みる。人生ってそういうものですよね。自分がどんな人間なのかを知るのは簡単ではありません。

そしておそらくショパンコンクールの頃には、自分の個性を見つけて大切にできるようになりつつあったのだと思います。強い面を見せようとしつつ、弱い面も自覚していく、成長しました。

—最後に、今度の仙台国際音楽コンクールを受けるみなさんに、アドバイスをお願いします。

コンクールだということを忘れ、自分自身でいることを大切にしてください。

コンクールのことを考えるのは実際に始まるまで。そこを目標に良いプレッシャーをかけながら自分を向上させてゆくのです。でもいざコンクールが始まったら、リラックスして過ごすことをおすすめしたいですね。多くの人はその真逆で、コンクールまでリラックスしすぎて、始まるとき過剰に緊張しがちですけれど。



第9回仙台国際音楽コンクール  
5/24(土)–6/29(日)

会場／日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）



公式サイト